

皮膚科 専門研修プログラム



専攻医に必要な、実践的な医療を幅広く身に付けることができます。



千葉県は首都圏に位置し、人口約630万人の大きな県ですが、大学病院の数は少なく、千葉大皮膚科には県内各所から多くの患者さんが来院されます。そのため当科では、幅広く多くの疾患を経験できます。

特筆すべきは皮膚悪性腫瘍の症例の多さで、手術件数は国公立大学の中で屈指です。ダーモスコピーや皮膚エコーによる診断や、外科手技を十分に学ぶことができます。

その他にも乾癬やアトピー性皮膚炎などの生物学的製剤を始めとする最新治療や、リンパ腫などの希少疾患や切除不能癌の治療にも力を入れると同時にcommon diseaseも数多く経験できるため、専攻医に必要な実践的な医療を身に着けることができます。

プログラム概要

専門研修期間：5年

プログラム責任者：猪爪隆史（皮膚科）

受け入れ人数：**6人**

選考方法：書類選考、小論文、面接

研修連携施設

研修基幹施設

- ・千葉大学医学部附属病院

研修連携施設

- ・総合病院国保旭中央病院
- ・国保直営総合病院君津中央病院
- ・千葉市立青葉病院
- ・日本赤十字社成田赤十字病院
- ・船橋市立医療センター
- ・千葉ろうさい病院
- ・帝京大学ちば総合医療センター
- ・埼玉医大国際医療センター

研修プログラムに関するお問合せ先

千葉大学大学院医学研究院皮膚科学

小熊 玲奈

Tel: 043-226-2505

Fax: 043-226-2128

Mail: derma-hp@chiba-u.jp

プログラムのここがポイント

＜柔軟で発展的な研修プログラム＞

1. 早期に確実に研修到達目標を達成できる。
2. 自らのニーズにもとづいて研修プログラムを設計できる。
3. 研修中から大学院に入学し、臨床に根付いた基礎研究を学べる。

＜充実した研修体制＞

1. Common diseasesから希少疾患まで豊富な症例を経験できる。
2. 連携病院では皮膚科的救急疾患を含め、地域特有の皮膚病診療を経験できる。
3. 連携病院は最も遠方の病院であっても車で一時間程度。
4. 臨床・研究含め多方面で活躍する指導医から丁寧な指導を受けることができる。

千葉大学病院総合医療教育研修センターHP
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/>

千葉大学病院見学のお申込み
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/visit/index.html>

プログラム内容

コースパターン

コース	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	基幹	連携	連携	基幹	基幹
B	基幹	連携	連携	連携	基幹
C	基幹	連携	連携	連携	連携
D	基幹	基幹	連携	連携	連携
E	基幹	連携	連携	連携	基幹
F	基幹	連携	連携又は 大学院	連携又は 大学院	大学院



2024年度新入局員（6名）
皆様の入局を
お待ちしております！

A. 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補います。連携施設は原則として1年ごとで異動しますが、諸事情により2年間同一施設の可能性もあります。

B-D. 皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

E. 研修4年目に一人医長として研修準連携施設で地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。

F. 研修3年目以降に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

- 専攻医は皮膚科専門医の取得をめざし、上記の研修コースに基づいて研修を行います。ただし、研修施設側の事情により、希望するコースでの研修が出来ないこともあり得ます。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性があります。
- 期間中、専攻医は指導医や上級医から、皮膚科医としての基本姿勢のみならず、各専領域での知識、技術を学習します。
- 基本的に初年度は大学病院で研修を開始し、2年目以降には連携施設において、充足していない症例を経験します。そして3年目終了時に研修到達目標の多くを達成します。
- 研修施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム管理委員会が協議して決定します。
- 大学院への進学を希望する場合は、プログラム責任者と管理委員会が協議して大学院入学時期を決定します。

千葉大皮膚科における特色 – 他科・他大学との充実した連携・学習の機会があります。 –

- 様々な講演会が開催されそれぞれの領域の最新情報を得ることができます。
- 大学内外の基礎医学の教室と連携して研究を進めています。
- 様々な大学出身の医師がおり、出身大学に関係なく活躍しています。
- 県の奨学金制度を使用している医師については派遣病院などに配慮します。
- 指導医は年代が近く、専攻医が質問しやすい雰囲気です。
- 専門医試験合格率が高く、ほとんどの場合5年の研修期間で受験資格が得られます。